

2020年10月4日
宮崎中部教会主日礼拝
牧師 乾元美

詩編 98 : 1～3

ルカによる福音書 10 : 21～24

「幸いな目」

<幸いだ>

イエスさまは、ご自分の目の前にいる弟子たちに言われました。

「あなたがたの目に見えるものは幸いだ。」

弟子たちが見ているものとは何でしょうか。それは他でもない、イエスさまです。イエスさまを見ることが出来るその目。イエスさまと出会い、イエスさまを知り、今、その御声を聞いていること。イエスさまが今、目の前に共におられること。それはとても幸いだ、と言われます。

そして、それは今ここにいるわたしたちのことでもあります。わたしたちの目、わたしたちの耳、わたしたち自身のことです。わたしたちは聖書を通して、礼拝を通して、イエスさまと出会っています。わたしたちが出会っているのは、この弟子たちの目が見たのと同じお方です。このイエスさまを知り、その御声を聞き、今、目の前に、復活し生きておられるイエスさまが共にいて下さることを知っています。そして、この独り子であるイエスさまを遣わして下さった天の父なる神さまがどのようなお方かを知らされています。

今ここで、天の父なる神さまと、御子イエスさまと、聖霊なる神さまを礼拝していること。聖書の御言葉を聞き、神さまがわたしたちを愛して下さり、イエスさまによって救って下さったことを告げられていること。イエスさまを信じ、神さまと共に生きる人生へと招かれ、そのように生きることが出来ること。これは、わたしたちにとって一番の喜びであり、一番の幸いです。

<喜ばれるイエスさま>

そして、このことをイエスさまご自身もまた、大きな喜びとして下さいます。

今日の聖書の初めのところでは、このように語られていました。「そのとき、イエスは聖霊によって喜びにあふれて言われた。『天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。これらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになりました。そうです、父よ、これは御心に適うことでした。』」

ここには、「これらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになった」とあります。「これらのこと」とは、前回の聖書箇所最後に書かれていた、「あなたがたの名が天に書き記されている」ということです。弟子たちがイエスさまと出会い、イエスさまに従い、イエスさまの救いに与って、神さまと共に生きる者となっていること。弟

子たち、わたしたち、一人一人の名が、天に書き記されていること。一人一人が、天の父なる神さまに愛され、覚えられていること。イエスさまは、弟子たち、わたしたちが、イエスさまと出会い、この神さまの恵みを知る者となったことを、心から喜ばれたのです。

<神さまを知る方法>

ところで、ここでは、この父なる神さまの救いの恵みは、「知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになった」と語られています。

あなたがたの名が天に書き記されること。つまりわたしたち人間が、神さまが遣わして下さった御子イエスさまの十字架と復活と昇天の御業によって、神さまの愛を知り、罪から解放され、永遠の命を頂いて、神さまと共に生きる者となること。

このことは、知恵ある者や賢い者には隠されている、と言います。つまり、人間の持つ知恵や、賢さでは、神さまのこと、神さまの御心、神さまの愛を知ることは出来ない、ということなのです。

神という存在。人を超えた、計り知れない力を持つ方の存在を、人はその歴史の中でずっと知ろうとしてきました。その存在を理解したい。把握したい。どういうものなのか納得したい。そう願って、努力をしたり、探求したり、考えたりしてきました。

しかし、聖書が教えていることは、まことの神さまは、わたしたちの知識や、努力や、探求によって、辿り着くことが出来る方ではない。知ることが出来る方ではない、ということなのです。

神さまはこの世界をお造りになった方です。無から有を創造し、世界を造り、命を造り、わたしたち一人一人を創造されました。天地の造り主。全能の神。あまりにも聖く、あまりにも大きく、あまりにも深いお方です。

そしてわたしたちは、この方に「造られた者」なのです。わたしたちがこの方を知り尽くすこと、把握すること、理解することなど、まったく不可能なことです。

そして、この造り主である神さまを見つめず、自分の思いに従って歩み、神さまから遠く離れてしまったわたしたちは、どうやったって、何をしたって、自分の力でこのお方のところへ、高みへ、近くへ、登っていくことは出来ないのです。

しかし、わたしたちが神さまを知る唯一の方法があります。それは、神さまご自身が、ご自分から、わたしたちにご自分のことを明らかにして下さることです。神さまが語りかけて下さることによって。神さまが示して下さることによって。わたしたちは、神さまがどのようなお方か。何を計画しておられ、わたしたちのことをどう思っておられるかを、知ることが出来るのです。

<イエスさまという啓示>

ずっとずっと昔の、旧約聖書の時代には、神さまは御自分が選んだ預言者を通して、人々に御自分を示され、語りかけ、導いて来られました。聖書の「預言者」は、未来を告げる「予

め言う者」の「予言」ではなくて、「言葉を預かる者」と書きます。神さまのみ言葉を預かって語る者、という意味です。

神さまは、ご自分から離れてしまった人々、罪に捕らわれている世界のすべての人々を救うために、救いのご計画を立てて下さり、小さなイスラエルという民族を選ばれました。そして、その救いのご計画を、預言者を通して人々に約束し、示してこられたのです。それが、旧約聖書に語られていることです。

そして、この救いご計画をいよいよ実現するために遣わされたのが、神の独り子である、救い主イエスさまなのです。

イエスさまは、聖霊によってマリアに宿られ、神さまに選ばれたイスラエルの民の中から、ユダヤ人として、まことの人となってお生まれになりました。神の御子イエスさまは、父なる神さまに遣わされ、天から来られて、罪と死に捕らわれ、神さまから遠く離れ、苦しみ嘆くわたしたちのところへ、この地上へ、降ってきて下さったのです。わたしたちと同じ、弱い肉をまとい、地上の者が、その目で見ることが出来る方、その耳で聞くことが出来る方、その手で触れることが出来る方となって、来て下さったのです。人の苦しみを、貧しさを、弱さを担うために、罪を、死を担うために、低く降って、わたしたちの最も近くへと来て下さったのです。いや、わたしたちの最も低いところに、来て下さったのです。

今や、この神に遣わされた方、神の御子イエスさまが、神さまの御心、神さまのわたしたちへの思い、神さまの救いのご計画を、すべて明らかにして下さいます。わたしたちは、神さまを求める時、神さまの御心を知りたいと願う時、このイエスさまというお方を、見つめれば良いのです。

イエスさまが示して下さいたことは、神さまが触れて下さるほどに近く、わたしたちと共におられる、ということです。罪に捕らわれ、死に支配され、動けなくなっているわたしたちのところへ、神さまの方から近付いて来て下さる。神さまの方から、わたしたちを尋ね求め、探し出し、近付き、触れて、わたしたちを見出して下さる、ということです。

そして、神さまの御心は、わたしたちを罪と死から解放し、神さまのものとして下さるということです。それほどに、造ったわたしたちを愛し、憐れみ、大切にして下さいたということです。

イエスさまの十字架は、わたしたちが神さまに対して犯したすべての罪を、償うためです。イエスさまが、神の御子が、すべての罪を担い、すべての苦しみを受け取り、すべての滅びの死を引き受け、神さまに背いた罪を拭い去って下さる。罪と死から解放し、神さまの命に与るものとして下さる。

天の父なる神さまは、そのように御自分の御子の命を与えてでも、人の罪を赦し、わたしたち一人一人が、神さまを見つめる者となり、神さまの愛を受け取って、神さまにお応えして、神さまを礼拝して生きる者となることを望んで下さっているのです。

イエスさまの十字架にこそ、天の父なる神さまの愛が、わたしたちに対する御心が、はっきりと示されているのです。

わたしたちは、自分が苦しい時、嘆く時、絶望する時、高みにおられる神さまはわたしのことを見捨てられたのではないか。なぜ何もして下さらないのか。なぜ働いて下さらないのか。そんな風に思っ、疑いを抱いたり、神さまを咎めたりすることがあるかも知れません。

しかし、神さまが示されたことは、神の御子イエスさまが語りかけて下さることは、わたしはあなたの最も近くにいる。あなたを下から、深い所から支えている。あなたの悲惨さ、絶望、苦しみを、すべて知っている。それをわたしがすべてに担う。あなたを背負う。あなたを慰める。あなたを救う。だからわたしに委ねなさい。わたしのもとに来なさい。わたしに従いなさい。ということです。

わたしたちは、いつでも、どのような時にも、イエスさまに、神さまの御心を尋ねるべきなのです。

<神さまの交わりに入れられて>

今日の聖書の 22 節では、イエスさまが「すべてのことは、父からわたしに任せられています。」と仰っています。父なる神さまは、ご自分の御子イエスさまに、わたしたちの救いをすべて任せられ、わたしたちに御自分の愛を、御心を明らかにさせるために、救いを実現するために、イエスさまを遣わして下さいました。

父なる神さまは、この御子イエスさまのことを、深く知っておられます。聖書では「父のほかに、子がどういう者であるかを知る者はなく」とあります。父なる神さまと子なるイエスさまは、互いをよく知り合う、深い交わり、親しい交わりを持っておられるのです。

そして神の独り子であるイエスさまもまた、父なる神さまの御心を十分に、深くご存知です。わたしたち人間が知る事の出来ない、父なる神さまの御心、ご計画、そしてどのような方であるか。それを御子イエスさまは、確かに、よく知っておられます。

でも、イエスさまは、「子だけが父を知っている」とは言わず、こう言われたのです。「父がどういう方であるかを知る者は、子と、子が示そうと思う者のほかには、だれもいません。」

父なる神がどういう方であるかを知る者は、神の御子であるイエスさまです。そして、イエスさまだけでなく、イエスさまが示そうと思う者も、父なる神さまがどういう方であるかを知る者となるのだ、と言われたのです。

子が示そうと思う者。それは、イエスさまが出会ってくださり、神の国を教えて下さり、癒して下さり、慰めて下さり、そして、十字架によって救って下さったすべての者のことです。今、イエスさまの目の前で、このイエスさまの御言葉を聞いている弟子たち。そして、聖書を通して、聖霊の導きによって、今このイエスさまの御言葉を聞いている、わたしたちのことです。

イエスさまはこのように、弟子たち、わたしたちと出会って下さり、導いて下さり、わた

したちに父なる神さまを示して下さるのです。そして、救いの御業を通して、神さまとわたしたちを、父と子のように、互いによく知り合う、深い、親しい交わりへと招いて下さるのです。

イエスさまを信じることによって、イエスさまが示して下さった神さまの愛を知り、その恵みを受け入れることによって、わたしたちは、神さまと親しく生きる者、神さまと共に生きる者とされます。これが、信仰です。

信仰は、学問や、哲学や、聖書の知識を習得することではありません。自分の決意や、たくさんある宗教の中から選択することでもありません。聖書を通して、生きておられるイエスさまと出会い、イエスさまの十字架によって罪を赦されたことを信じ、復活の新しい命を与えられることを信じ、神さまを礼拝して生きることです。神さまと共に人生を歩むようになることです。神さまにずっと知られ、ずっと愛され、ずっと見つめられていたことを知り、その恵みを受け取って、感謝して、わたしたちもまた神さまを愛して生きるようになることなのです。

2000年前、イエスさまがこの地上に、わたしたちの世界に遣わされ、その救いの御業を成し遂げ、神さまの愛を、罪の赦しを、永遠の命を明らかに示して下さいました。

旧約聖書の時代、預言者でも、王さまでも、イエスさまが来られる前の時代の人々は、望んでも見られなかったことです。望んでも聞けなかったことです。しかし今は、もうこの神さまの救いの出来事は起こったのです。わたしたちは救いの知らせを、はっきりと聞くことが出来るのです。イエスさまの恵みを、はっきりと見る事が出来るのです。

今ここにいるわたしたち、御言葉を聞いているわたしたち、救いが実現したことを知っているわたしたち、イエスさまと出会っているわたしたちは、まことに幸いなのです。

今、復活なさったイエスさまは天に昇られ、肉の目でわたしたちはそのお姿を見ることは出来なくなりました。直接声を聞くことは出来なくなりました。

しかし、わたしたちは聖書を通して、イエスさまの御言葉を聞くことができます。またイエスさまは、イエスさまが確かにわたしたちと共にいて下さること、確かにわたしたちの罪を赦し、神さまとの深い交わりに入れられていることを覚えるための、恵みの手段を与えて下さいました。それが、今日行われる聖餐です。

聖霊なる神さまによって。信仰によって。見て、触れて、味わうことのできるこのパンと杯は、まことにわたしたちが心も体も魂も、イエスさまによって養われ、生かされていること。イエスさまと一つにされていること。天におられる神さまの恵みの食卓の一員とされていることの「しるし」です。

「あなたがたの見ているものを見る目は幸いだ。」この幸いに生かされていることを、心から感謝します。そして、この幸いに、すべての人が招かれていること。今、ここですべての人が、生きておられるイエスさまに出会い、救いへと招かれていることを覚えて、神さま

と共に生きる者となることを望まれていることを覚えて、お一人お一人の信仰の歩みが導かれますようにと祈ります。

【お祈り】

天地の造り主、わたしたちに命を与え、養い、生かして下さる、天の父なる神さま

あなたに背き、逆らい、罪に捕らわれているわたしたちを、あなたは決して見捨てることなく憐れんで下さり、愛する独り子を遣わして、その命を与えて下さるほどに、わたしたちを愛して下さったことを感謝いたします。

わたしたちは、イエスさまが救い主として来て下さったこと、わたしたちの罪の赦しのために十字架に架かり、そしてわたしたちにも復活の命を与えるために、死者の中から復活させられ、救いの御業が成し遂げられたことを知らされています。この恵みを信じ、受け入れ、神さまの愛に応えるように。神さまと共に生きる幸いに与るようにと招かれています。

どうか、聖霊なる神さまの導きによって、イエスさまの救いを信じ、神さまと共に生きる者として下さい。救い主イエスさまが、わたしたちを捕らえて下さり、恵みのご支配の中に入れて下さい。そして、神さまを礼拝して生きる者、まことの喜びに生きる者として下さい。

イエスさまの御名によって祈ります。アーメン